

新党日本代表 田中康夫 質疑

2011/02/23(水) 9:20~9:25

第177回国会(通常国会)

衆議院 予算委員会

菅内閣の政治姿勢に関する集中審議



さあ、信じられる日本へ。

新党日本
nippon-dream.com

一つ目は、増税で景気浮揚した国家は古今東西どこにも存在せず、増税よりも増収をもたらすのが政治家の使命と。が、菅さんは、政権交代時の国民への約束を踏みじり、増税ありきで猪突猛進されています。

二つ目は、関税自主権を放棄するTPPは、羊の皮をかぶったオオカミ、トロイの木馬。その前に、きめ細かいFTA、EPAの締結を各国と。が、昨日の中央公聴会では、内閣支持率同様に組合加入率がわずか一八%の労働組合、連合の公述人が、私の質問に対し、増税とTPPはぜひとも実施すべきと、民主党との一蓮託生発言をされており。

三つ目は、菅さんが豪語する、二十年後も大丈夫な社会保障改革。が、日本の人口は、二十年後には千七百万人減の一億一千万人です。年金制度の微調整では太刀打ち不可能で、基本所得保障、ベーシックインカムを導入こそ抜本的解決です。

ところで、格好をつけずにやるべきことをやるという当たり前の話を、国土交通大臣、沖繩担当大臣、外務大臣を御歴任の前原誠司さんにも伺いたしたく思います。

日本航空、八ツ場ダム、尖閣沖速捕、北方領土残念ながら、あなたの判断ミスで、製造物責任法、PL法であなたが指弾されるべき、国益を損ねる事態が政権交代後の一年半続出しております。口先だけで成果が伴わねば、現場は混乱し、職員が疲弊し、国民も被害をこうむります。

他の航空会社も、新幹線も、高速道路も、フェ

リーも存在するのに、JALの飛ばない日はつくりたくない情緒的な発言で、自浄作用なき一民間企業に巨額の税金投入をした迷走。

また、八ツ場ダムの本体工事は未着工でありますから、ならば、周辺道路整備は、河川局でなく本来の道路局予算へと大臣就任直後に組み替え、その上で、自民党の河野太郎さんも指摘する、基本高水流量という虚構の算定式を見直し、新しい治水のあり方を提示すべきでした。

尖閣沖速捕と北方領土の居丈高な物言いと腰砕けな迷走は、残念ながら、既にこの予算委員会の場でもただしてきたところです。

さらに、昨日発生のニュージーランドでの地震の被害者の御家族を政府専用機でもにお届けするとう豪語されましたが、残念ながら、先ほど外務省幹部は、邦人の家族搭乗は過積載になる可能性があり難しいと説明をする始末であります。日本の政治の閉塞状況を憂う全国津々浦々の真つ当な国民は、今、世代交代だのさわやかだの、上つ面の指導者でなく、奥深い哲学と冷徹な覚悟をあわせ持った、成熟した、マチュアードな政治家、ステーツマンを求めていると私は考えておりますが、前原さんに御所見を伺います。

○中井委員長 前原外務大臣。一分弱しか時間があります。

○前原国務大臣 JALの再建については、私は、いろいろと田中委員はおっしゃっていますけれども、判断は間違っていないかつ、そして、今はうまくいっている、そしてうまくいかせなければいけない、そう思っております。

○中井委員長 次に、田中康夫君。

○田中(康)委員 歴史に類を見ない超少子超高齢社会日本は、過去の成功体験を乗り越え、その根底から発想を変え、選択を変え、仕組みを変えねばなりません。そのためには、奥深い哲学と冷徹な覚悟が国家の指導者に求められています。

菅直人さんは、一昨日の予算委員会でのたまたました、やるべきことをやるのが強いリーダーだ。これは、首相のいすにしがみついているだけではないかとたまたました自由民主党の武部勤さんへの答弁です。格好をつければ強いリーダーだとは思わないとも菅さんはつけ加えました。お説ごもつともでございます。が、格好をつけずに、いすにしがみつかずにはやるべきこととは一体何でありましよう。

私は、本会議の代表質問、予算委員会の質疑でも、繰り返し以下の三点を述べてまいりました。

八ツ場ダムにつきましましては、私は一年国交大臣をやらせていただきましたけれども、引き続きやらせていただければ、必ずこれについては結論を得て、私は、これは田中さんと同じだと思えますけれども、今の、すべての洪水をコンクリートの構造物に押し込めて海まで流すという発想を根本的に変える、哲学を変える公共事業の考え方について、これも間違っていないし、やり遂げなくてはいけないというふうに思っております。

北方領土の問題につきましては、私は、政治家になつたきっかけがこの問題であるということ、自分のライフワークとして取り組んでいきたいという決意は全く変わっておりません。

いずれにいたしましても、田中委員がおっしゃる、政治家の言葉というのは重いということについては私も同じ認識でございますので、そういう思いを共有しながら努力をしていきたいと考えております。

○中井委員長　これにて田中君の質疑は終了いたしました。